

7段階の細やかなアクセスレベル

DirectCloudのアクセスレベルは、オーナー、編集者、編集者-（マイナス）、ダウンローダ、閲覧者+、閲覧者、アップローダの7種類があります。

細かいアクセスレベルを使うことにより、企業は従業員やゲストの業務状況に応じて柔軟かつ安全にシステム運用することが可能です。

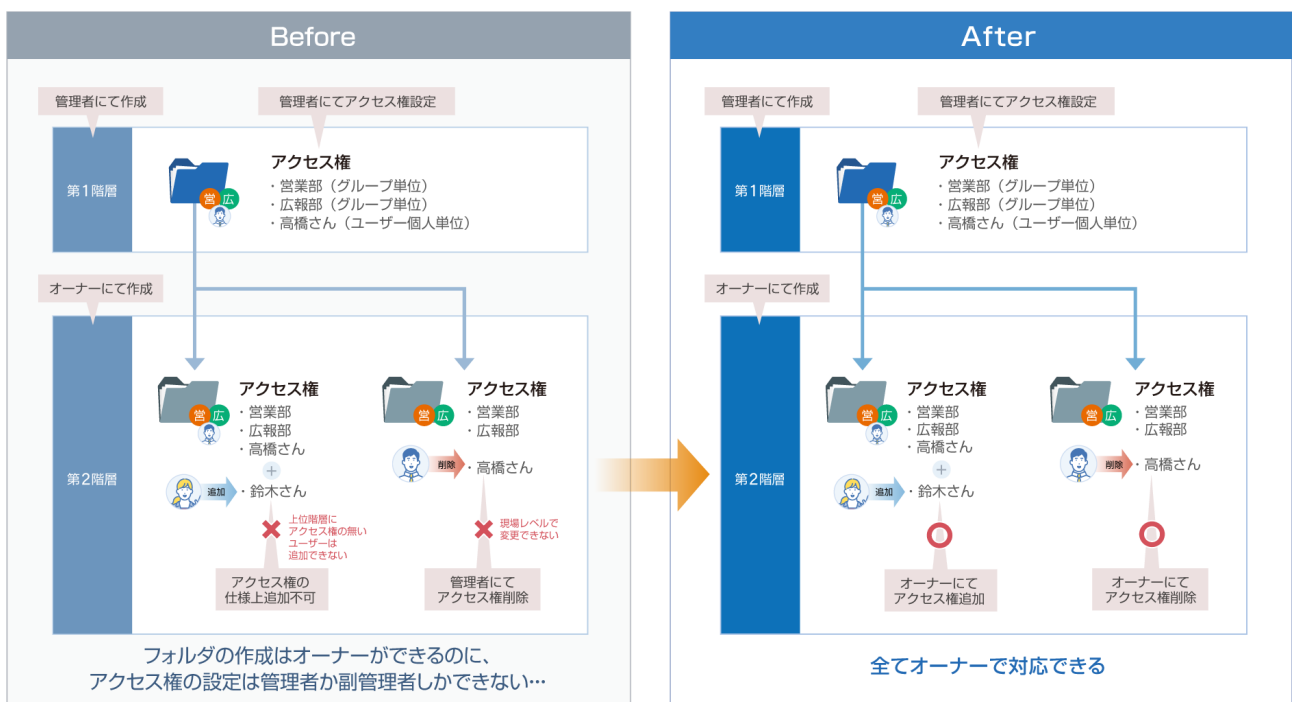
権限	オーナー(全権限)	編集者	編集者-	ダウンローダ	閲覧者+	閲覧者	アップローダ
プレビュー	●	●	●	●	●	●	×
コメント	●	●	●	●	●	●	×
編集	●	●	●	×	×	×	×
ダウンロード	●	●	×	●	×	×	×
アップロード	●	●	●	×	●	×	●
コピー	●	●	×	×	×	×	×
移動	●	×	×	×	×	×	×
リンク作成	●	●	×	×	×	×	×
バージョン管理	●	×	×	×	×	×	×
ゲスト招待	●	×	×	×	×	×	×
ファイル削除	●	▲※	×	×	×	×	×
フォルダ作成/削除	●	×	×	×	×	×	×

※「編集者」で削除できるのは、「編集者」ユーザー自身がアップロードしたファイルのみです。

現場責任者によるアクセス権設定で業務スピードアップ

従来は、管理者・副管理者のみとなっていたアクセス権設定がオーナー権限でも可能となりました。各プロジェクトごとにオーナーを設定しておけば、現場主導でアクセス権の設定がフレキシブルに行えます。

また、ユーザー単位でのアクセス権の有効期限設定機能も追加。これまでの管理者による組織単位での一括管理だけでなく、現場の責任者（オーナー）による柔軟な管理にも対応し、業務状況に応じたフレキシブルなアクセス権設定が可能となりました。



編集者- (マイナス)のアクセスレベルを新たに追加

「編集者- (マイナス)」のアクセスレベルを設定することで、ファイルをダウンロードすることなく編集することができます。Microsoft Office系のファイルを複数人で同時に編集することができます。クラウドストレージ上のファイルをDirectCloud ドライブまたはWebブラウザで編集することができます。

権限	編集者	編集者-
プレビュー	●	●
コメント	●	●
編集	●	●
ダウンロード	●	×
アップロード	●	●
受取フォルダ	●	●
コピー	●	×
ファイルリンク	●	×
ファイルロック	●	●
添付ファイル送信	●	×
ファイルの削除	▲※	×

※「編集者」で削除できるのは、「編集者」ユーザー自身がアップロードしたファイルのみです。

・課題

場所を選ばない働き方を実現するために、ファイルサーバーからクラウドストレージに乗り換える企業が増えています。そこで、利便性とセキュリティを両立が求められています。重要文書を社員のPCにダウンロードすることなく、ファイルを編集させたいという要望が増加しました。

・メリット

ドキュメントをPCのメモリ上で編集できて、セキュリティ損なうことなく生産性向上を実現できます。

・編集者- (マイナス)のアクセスレベル

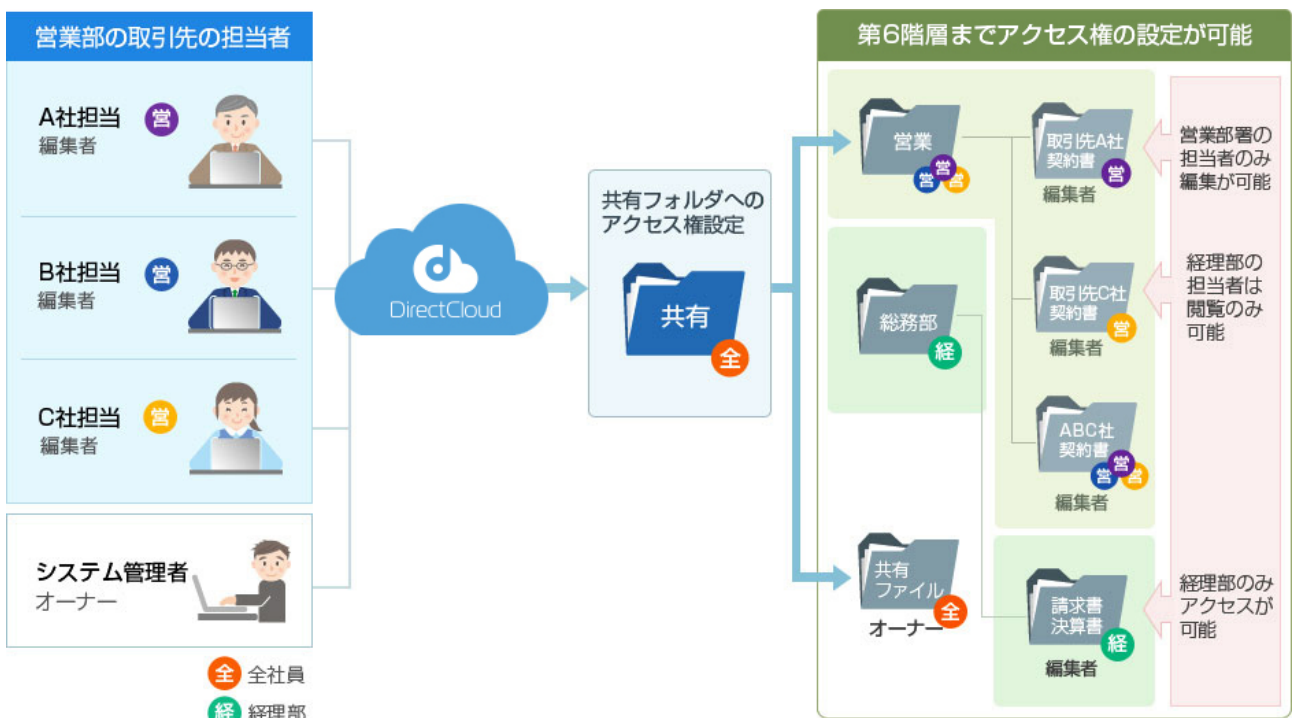
ファイルを外部に持ち出す際に必要な要素「ダウンロード」、「コピー」、「ファイルリンク」、「添付ファイル送信」が外されています。

様々な状況に応じて柔軟なアクセス権の設定が可能

企業がファイル共有を利用する上で、業務内容に沿ったアクセス権の設定は非常に重要です。

DirectCloudでは、共有フォルダ以下の6階層までアクセス権を業務・部署別に細かく設定できます。

そのため、営業部署内のみで編集可能なファイル、他の部署には閲覧を許可するが、変更されたくないファイルなど様々な状況や利用条件に応じて柔軟で安心な情報共有を実現できます。



共有フォルダに対するアクセスレベル

DirectCloudでは、組織や業務内容ごとにフォルダに対するアクセスレベルが設定できます。

「オーナー」「編集者」「ダウンローダー」「閲覧者」「アップローダー」の7段階のアクセスレベルによって、グループやユーザーが必要な権限を付与することができます。

